「令和4年度実施結果報告書」
《技術の検証・情報提供及び普及》

事業名称：日本型ケアファーム普及のための
地域・多世代交流の環境整備モデル事業

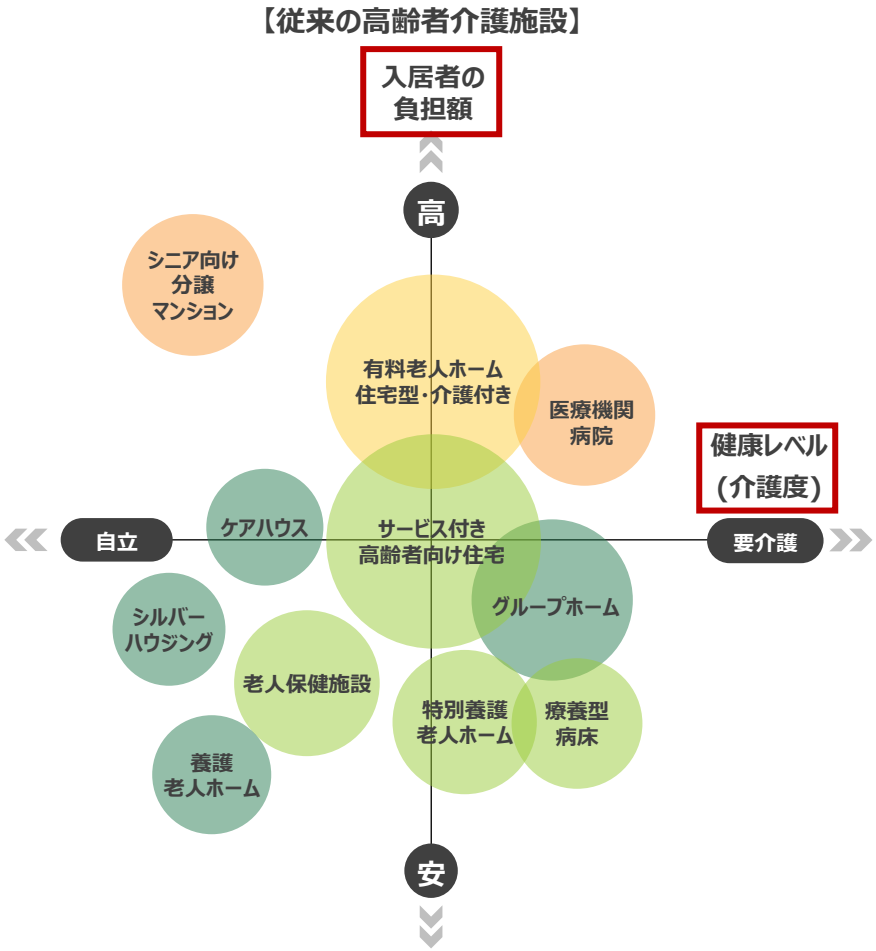
補助事業者：都市緑地株式会社
共同事業者：社会福祉法人桑の実会

令和5年12月

0．提案の概要

①提案事業の目的

a.日本の介護保険制度は高齢者居住の安全・安心については優れた制度といえる。しかし「生きがい」という視点が不足している。同様に障害者の就労環境も、仕事を作るための仕事という側面が否定できないケースがある。



仕事があればいいわけではない

「介護度」と「費用」の２軸だけで考えていいのか？

０．提案の概要

b.地域交流が希薄化し日常的なコミュニケーションが衰退している。
地域・多世代交流の促進により、高齢者・障害者・子育て世帯を含む、さまざまな人々が暮らしやすいまちづくりが求められている。

特に災害時などリスク発生時に弱者である高齢者、障がい者の地域での適応力を高め、地域全体での相互扶助体制を強化する必要がある。

0．提案の概要

②提案事業の内容

●技術の検証
本事業においては多世代、多様な関係者のコミュニティのためのアプリケーション開発し（事業対象外）カメラ及びRFIDタグによる合理的農園運営の試行を行う。

●情報提供及び普及
この技術・試行による多世代交流の情報を提供し、日本型ケアファームの運営の参加、建設地の募集を呼びかける。次年度マニュアルの出版の準備をおこなう。

https://carefarm.jp

①検証の目的・問題意識

高齢者住宅に併設される農園は、土いじりができる程度の目的しかなく、要介護の高齢者にはその楽しみもできない。さらにその維持は介護職員の負担になる。この農園をコミュニティのコアとし、多世代の交流の場として、また農園の維持を障がい者就業支援の場としての機能を持たせることにより高齢者・障がい者の就労・市民の交流をそれぞれの制度で負担しうるコストで構築する。

②仮説の設定

農園は参加者の区画だけを設定しても、そこで誰もが農作物を育てられるわけではなく、参加できる時間や動機も様々である。高齢者などは体力に劣り、サポートする人が必要で通常の市民や、障がい者支援の指導員などはスキルがない。そこで、農園を楽しめるスキルの高い人材との積極的な交流、相互サポートのシステムが必要であるが、人的資源提供や時間的コストだけで構築するためには、農園の収入はあまりに少なすぎる。
これを畑ごとに設定する特殊なクローズドSNSによりコストを減らし、耕作技術の共有と共に、多様な参加者のコミュニティ組成ができるとすることを仮説とする。

③検証方法

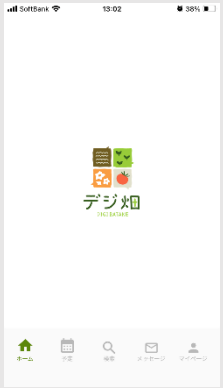
アプリケーション「デジ畑™」（特許申請中/開発費用は事業対象外）を開発し、障がい者福祉施設付属農園で試行し効果を測定する。

a.「デジ畑」は農園ごとのクローズドSNSで、上位で農園同士のコミュケーションができるアプリケーションであり、現在農園に誰がいるかわかることに特徴がある。

b.また、畑作業を実施するための農業指導の動画、写真の配布機能、交流機能や作業の相互依頼機能がある。現在いる人に対して作業や、作物の持ち帰りを依頼できる。また、障がい者就業作業所で有料で依頼できる。これらの機能を順次実装してゆき、アクセス数やアンケートにより効果を測定する。

c.市民農園参加者を中心に、障がい者、高齢者、近隣の子供達が参加するイベントを企画実行し、アンケートによるコミュニティへの効果を測定する。

今誰が畑にいるかアイコンで表示され押すとその人の詳細がわかる



トイレ・水栓の開錠装置にもなるRFIDタグ

顔認識カメラとRFIDタグの受信操作のサーバーコンテナ
ソーラーパネルによるオフグリッド装置

④検証の結果
2年度に渡る実証実験の初年度であり、農園の運営と「デジ畑」の開発・改良を並行して行ってきたため、アプリケーションの有無によるアクセスログの解析には、春からのシーズンの次年度のアクセスログの分析との比較等が必要で、定量的な検証はまだできていない。次年度に報告します。
農園をコアとして多世代・多様な参加者によるコミュニティの組成は可能だと感じることができた段階。

・事業期間のアプリケーション開発進捗と農園運営
4/1　農園開園　デジ畑βバージョン運用開始
5/1　イベント「種ダンゴ」近隣こども園の園児参加
7/23　イベント「夏野菜バーベキュー開催」
8/3　顔認識カメラサーバー設置試行（認識精度に課題がありRFIDタグ併用に開発方針を変更）
10/14　クラウドサーバーにアクセスロギング機能を実装
11/2　RFIDタグ併用テスト送信開始
12/28　タグによるトイレの開錠装置実装

現在、畑は冬野菜が一段落し、春の準備に向けている。

2．情報提供及び普及

①情報提供及び普及内容

・一連の「デジ畑」による農園のコミュニティ組成の試行を、日本型ケアファームを広めるために、ケアファームジャパン（今回の農園は、狭山ヶ丘ケアファーマーズ）としてWebで発信する。狭山ヶ丘ケアファーマーズは近隣住民の参加者を折込チラシで募集。

・ケアファームジャパンを各種メディアで紹介するとともに、日本型ケアファームへの参加を土地所有者、介護事業者に広報して、候補地及び参加者を募集する。

・次年度に日本型ケアファームのマニュアルを出版する予定であり、その基本的なコンテンツの取集を行う。

②事業効果

・10月以降、月2～3件の候補地に関する情報が寄せられるようになった。12月末時点で、ケアファーム事業検討を継続している候補地は次の通り

a.法人所有による農地6万㎡（埼玉県深谷市）
b.個人所有による農地・宅地8500㎡（埼玉県加須市）
c.個人所有による農地・宅地12000㎡（千葉県成田市）
d.個人所有による農地・宅地3200㎡（兵庫県南あわじ市）
　その他、前橋市、羽生市、さいたま市、所沢市等

３．総括

2ヵ年度を要して高齢者住宅に併設される農園をコアにした多世代・地域コミュニティの組成を目的に日本型ケアファームの試行を行う。小規模とは言え、実際の市民と障がい者等が参加している環境で、アプリケーションの試行と運用ができる環境は得難い。

社会と多世代に開かれたケアファームは日本にも必要と感じていたが、日本の市場には例がなく、国民にその選択肢はない。また市場にないため選ぶ対象としても存在せず、多様な暮らし方が選択できる老後、あるいは好きな仕事、やりがいのある仕事を、障がいのある方自らが選びやすい環境であってほしいと願い、この会社を設立した。

都市緑地が企画したケアファーム「ココファンガーデン新潟亀田」が
みんなの介護アワードで11月甲信越部門第一位を獲得した。
もちろんケアファームであることが評価のすべてではないが、入居してみなければわからないことがある。オープンから16カ月、着工から29カ月、企画からは3年を要した。
建設にかかわるプロジェクトは、着手からその評価までとにかく時間がかかる。日本型のケアファームを届けたい。